

## 社会参加促進等に関する検討会について（報告）

## 高齢者及び障がい者の社会参加促進等に関する検討会の開催状況

## ■第3回検討会（平成30年8月20日）

## ○議題

- ①検討会におけるこれまでの議論
- ②高齢者と障がい者の社会参加について考えるワークショップの開催報告
- ③障がい者の社会参加促進に関する部会の開催報告
- ④社会参加促進の今後の方向性

## ○概要

（議題①について）

障がい者については、一般就労の困難性から全体的に収入が低い傾向があり、また、公共交通機関による移動や活動の場所の存在が、その自立に必要不可欠な方もいる。また、障がいによりバス車内での円滑なコミュニケーションが困難な方もおり、おでかけICカードのチャージ環境の改善など、利用環境の向上へのニーズが高い。

（議題③について）

障がい者自立支援協議会内に設置した「障がい者の社会参加促進に関する部会」において、障がい者団体等から聴取した以下の項目の意見をフィードバック。

## 【障がい者団体等から聴取した意見】

- 社会参加について
  - ・障がい者の理解促進について
  - ・雇用・就労について
  - ・交流の場について
  - ・移動支援や公共交通機関について
- さくらカードについて

## ○主な意見（障がい者部分）

- ・部会で様々な意見がでていますが、当事者の意見を吸い上げ、反映させる体制が不十分ではないのか。
- ・おでかけICカードをチャージする場所が少ない等の意見に関する交通系ICカード（地域カード、全国カード）の仕組みのこと

など

## ■第4回検討会（平成30年10月11日）

### ○議題

- ① 障がい者の社会参加促進について
- ② 高齢者の社会参加促進について
- ③ 熊本市優待証（さくらカード）制度【高齢者】について

### ○概要

（議題①について）

- ・これまでの検討会や部会での意見を踏まえ、障がい者の社会参加促進のためには、「障がいに対する理解」「雇用・就労」「交流活動」「移動支援」等が重要である。
- ・その中で、特に移動支援については、さくらカード（おでかけICカード）の使い勝手が不便である等の声が多くあり、課題がある。
- ・障がい者の社会参加を促進する、ひとつの重要な施策として、さくらカード制度の見直しが必要ではないか。

障がい者団体等からのさくらカードに対する意見・要望	
	主な意見・要望
ソフト面	・乗車・降車時、ICカードをタッチする車載機の位置が分からない（主に視覚障がい者） ・カード残高の確認が困難（主に視覚障がい者、知的障がい者） ・車内でチャージするタイミングや操作が困難（主に視覚障がい者、肢体不自由者、知的障がい者）
ハード面	・チャージする場所が少ない ・市境での精算が煩わしく大変 ・車載機タッチ音が一般利用者と違うため「区別されている」と抵抗感がある
利用者負担面	・おでかけバス券からおでかけICカードに移行して、利用負担が多くなった（特に通所者） ・定額制にしてほしい（チャージが難しいため） ・利用者負担があること自体が疑問
その他	・軽度の身障・療育手帳所持者や難病患者等も使用できるようにしてほしい

  
**対応策の検討**

○主な意見（障がい者部分）

【さくらカード（おでかけICカード）について】

- ・運転手さんが介入しなくても通過出来るようなシステムができないか。
- ・障がい者は「やってもらう」、運転手さんは「やってあげる」みたいな関係性が生れるようなことは、成るべく避けていければ。そうなれば運転手さんの負担も減らすこともできる。
- ・障がいのある人達が一方的に安くしてとかを望んでいるのではなくて、本人たちも納得したい。費用について、具体的なデータを示して頂いて、一緒に話し合う場が必要ではないか。
- ・工賃が月に1、2万の就労施設通所の方が、交通費が2万かかってしまうのはおかしく、本当に自由に動ける人達が、動けなくなっている状態というものを分かって頂きたい。
- ・意見としては出し尽くした感がある。これからどうなるのかを知りたいと思う。
- ・ある程度議論は煮詰まった感があり、後は制度をどうするのか。もっと使いやすくしてほしいというのがこの検討会としての総意だと思うので、そういう形に検討いただければと思う。

など

## ■第5回検討会（平成30年11月29日）

○議題

- ①高齢者及び障がい者の社会参加促進等に関する報告書（素案）について
- ②熊本市優待証（さくらカード）制度（高齢者）について

高齢者及び障がい者の社会参加促進等に関する報告書（素案）		
障がい者の社会参加促進について	（1）現状と課題	（2）今後の方向性
（1）障がいの理解に関すること	障がい者が地域で安心して生活を送ることができる社会にするためには、障がいや障がい者についての正しい知識の普及を進め、ノーマライゼーション理念の一層の浸透を図る必要がある。しかし現状は、差別や嫌な思いの経験をしたことがある方もおられ、市民の理解がまだ不十分ではないか。	具体的には、障がい者サポーター制度による理解啓発、ヘルプマークやヘルプカードの周知・普及などがあるが、職場や学校などで、障がいに対する理解が深まるような取組が必要。例えば、学校教育の中で障がいのことについてもっと知ってもらう機会を増やしたり、障がい者サポーター制度を広げる

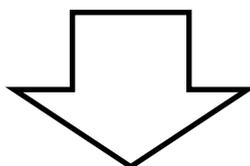
		ためには、地域や職場内などに、コーディネーターを配置し、サポーターを育てる側に回れる人を育成していく取組など。
(2) 雇用・就労に関すること	<p>働く意欲のある人が、その適正に応じて能力を十分に発揮するためには、多様な就業機会の確保や、その人に合った働き方が選択できる環境を整備していく必要がある。また、障がい者が働きやすい職場環境を整備するため、事業主等に対して、様々な障がいへの正しい知識を普及することも重要である。</p> <p>しかしながら現状は、就労したくても障がいの特性上、週5日のフルタイム勤務が難しい方も多く、短時間勤務や週に数日といった働き方が望ましいが、就労の場は限られ、所得水準が低い方も多い状況である。</p>	<p>雇用・就労の課題は、福祉部門だけでは解決できない。「働く」にかかわる関係部署、関係機関で健常者と同じテーブルにのせることが大事であり、あらゆる角度からのアプローチを検討する必要がある。また、就職・雇用・定着に関して、学校卒業後も関係機関との繋がりが大事であり、当事者の事をよく理解している特定の指導者の中・長期的なフォローが障がい者にとって重要であり、所得の向上に繋がるよう定着までの一貫した支援が必要。</p>
(3) 交流活動・移動支援に関すること	<p>すべての市民が互いに尊重しあい、共に生活する社会を目指すうえで、障がいのある人とない人とのふれあいの場、機会は重要であるが、現状、そのような交流の場は少ないのではないかと。</p> <p>移動支援については、外出時の付き添いをする人が少なく大変である、特に視覚障がい者の外出を支援するガイドヘルパーの数が不足している。また、市の事業である福祉タクシーや燃料費助成等の事業については、使い勝手等の課題があると思われる。</p>	<p>「交流活動」を「何か特別なイベント」と捉えてしまう発想そのものを考え直し、「熊本市では、あちこちでしょっちゅう、地域の人たちと障がいのある人たちとの催しがあつてね」という日常が定着するように、行政が主体となって活動を推進していくことが必要。</p> <p>また、移動支援については、ガイドヘルパーが確保できるよう、環境づくりをする必要や、福祉タクシーや燃料費助成等の事業の現行運用について、より効果的な事業になるよう検証することが必要。</p>

<b>熊本市優待証（さくらカード）制度について</b>	
<b>(1) 現状と課題</b>	<p>熊本市優待証（さくらカード）事業は、高齢者及び障がい者の社会参加促進等を目的として実施しているものであるが、平成8年の事業開始から20年以上が経過する中で、少子高齢化の進展やライフスタイルの変化などにより、社会情勢も変化している。</p> <p>熊本市優待証（さくらカード）を利用して公共交通機関を割引運賃で利用するためには専用のICカード（おでかけICカード）が必要となるが、熊本市が平成29年度に実施したおでかけICカードについての市民アンケート調査及びおでかけICカード利用履歴データ調査の結果より、当該事業が社会参加促進等に一定の効果をもつことは認められているところである。</p> <p>しかし、同調査の結果からは、利用者や利用状況についての偏りも見られたところであり、また、年間約5億円程度の予算（主に高齢者利用に係る運賃負担金）のもと事業を実施している状況も踏まえると、制度の目的との関係で効果的なものとなっているか、他の社会参加促進施策全体の中で、制度のあり方を再整理する必要がある。</p> <p>一方、障がい者については、所得水準の低い方も多く、加えて、障がいの特性に応じて外出手段や外出先（就労先や通院先等）の選択性に乏しいという現状があることから、障がい者の社会参加を促進するための一つの重要な施策として、当該事業の意義は大きいと思われる。しかしながら、当該制度については、おでかけパス券からおでかけICカードへ移行したことにより、チャージ環境や車載機タッチ音、市境における精算の問題をはじめとする利便性に関する課題、また、一部の利用者にとって利用者負担が多くなった等の様々な課題が提起されている。</p> <p>また、対象者には若年層も含まれており、社会参加の意義が将来的な自立の観点からも極めて大きいことから、障がい者の特性にも配慮したうえで、制度のあり方について検討を行うことが必要である。</p>
<b>(2) 今後の方向性</b>	<p>① 利便性の向上</p> <p>使い勝手の問題により利用が控えられ、社会参加が阻害されることは極力避けるべきであり、当該制度による一層の社会参加促進を図るためにも、おでかけICカードの利用環境の改善など利便性の向上について、利用者の視点に立った検討を行うことが必要である。</p> <p>あわせて、当該制度を利用するための手続（新規申請や更新手続等）の簡略化や対象者への十分な周知を図ることなどにより、誰もが制度を利用しやすい環境づくりに取り組み、利用者の一層の増加に努めることが必要である。</p>

	<p>(検討を行うべき内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャージ環境の問題</li> <li>・利用時（車載機の位置等やカード残額確認方法）の問題</li> <li>・市境精算の問題</li> <li>・タッチ音の問題 など</li> </ul> <p>② 対象者や利用者負担の見直し</p> <p>イ 障がい者</p> <p>障がい者の社会参加促進を図るためには、移動支援が重要な観点の一つであり、当該制度の果たす役割は重要であると考えられることから、利用者の負担軽減についてはさらなる配慮が検討されるべきである。</p>
--	---

○主な意見（障がい者分）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、この報告書をどういかしていくのか。</li> <li>・さくらカードについて、障がい者の分については、利用者の利便性の向上や負担軽減の記載もあり、ぜひ検討をお願いしたい。</li> <li>・さくらカードがカードケースに入らない意見もある。</li> <li>・障がい当事者の意見をぜひ反映させてもらいたい。</li> </ul>	<p>など</p>
--	-----------



**今後の検討の流れ**

- 報告書については、今回の素案に対する意見等を踏まえ、年内を目処にとりまとめたい。
- 市内部で引き続き検討を行う方向。